

岡山市第六次総合計画の後期中期計画（素案）へのご意見募集（パブリックコメント）の結果について

1 意見募集の概要

(1) 意見募集期間

令和2年12月28日（月）～令和3年1月27日（水）

(2) 閲覧場所

- ・政策企画課、情報公開室、各区役所、各支所、各地域センター、各公民館、各ふれあいセンター
- ・本市ホームページ

(3) 意見提出方法

電子メール、ファクス、郵送、持参、本市ホームページ入力フォーム

(4) 意見提出先

岡山市政策局政策部政策企画課

2 意見募集の結果

(1) 意見数 71

<内訳>

区分	意見項目数
計画全体	4
総論	3
分野別計画	62
区別計画	2
合計	71

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
計画全体（意見項目数：4）				
1	計画全体		岡山市の特徴を捉えた上での計画になっていると感じられました。東京などの大都市を参考にすることも大切だとは思いますが、岡山市ならではの悪い面、良い面を活かした計画がなされるべきだと思います。岡山市の魅力度がさらに向上することを願います。	岡山市第六次総合計画長期構想では、岡山市固有の強みや特性、課題認識を踏まえて策定しております。今後も、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現に向け、計画の記載内容を着実に推進し、さらに岡山市の魅力を高めていきます。
2	計画全体		計画全体について、総花的で岡山市がどうなりたいたのかゴールが見えづらいと感じました。まずはこれまで何に取り組んできて何が達成できて何ができていないのか、前期中期目標について具体的な数値に基づく評価がされた後、後期中期目標が策定されるべきと考えます。また、評価指標が空欄のところが目立ちますが、具体的な数値を示すべきです。岡山市がどうあるべきなのか、ベンチマークに基づく具体的な数値目標と達成した場合のビジョンを広く市民に示すことにより、皆に理解の得られやすい総合計画になるのではと感じました。	前期中期計画の進捗状況については、後期中期計画を策定するに当たって、中間評価としてホームページで公表しています。また、後期中期計画（案）の成果指標の目標値については、2月に市のホームページで公表しています。今後も、各施策のもとで実施する取組の達成状況や各個別計画の進捗管理等を勘案しながら、取組の見直しや重点化を図り、予算編成に反映することで計画を着実に推進していきます。
3	計画全体		コロナの感染がおさまりませんが、対応した計画にしてください。	後期中期計画は、総論に記載している「新型コロナウイルス感染症に伴う新たな課題」や、「政策推進上の3つの観点」を踏まえて策定しています。今後も、岡山市として必要な対策を迅速に実施していきます。
4	計画全体		現市長になって、市民会館建替えや路面電車の延伸など、中心市街地のハード整備が目立ちます。県都として、政令指定都市として、都市機能の充実や賑わい創出は必要です。岡山に暮らす市民としては、都市格の向上にも期待を寄せているところです。今後は、中心市街地のハード整備だけでなく、福祉や産業振興などのソフト面の充実や中山間地域も含めた周辺部の活性化など、バランスのとれた政策で域全体の発展につながるような実効性のある計画にしてください。	ご指摘の政策については、後期中期計画（素案）においても、新たな雇用と活力を生む戦略的な産業振興（政策1）、多彩で活力ある農林水産業の振興（政策3）、周辺地域の拠点機能の充実と活性化（政策5）、ともに生き、ともに支え合う地域共生社会の推進（政策2-2）に掲げているところであり、今後も、毎年度の予算編成を通じて、市民ニーズや社会経済情勢の変化に的確に把握し、全体のバランスを見ながら重点化を図り、計画を着実に推進していきたいと考えています。
総論（意見項目数：3）				
5	総論		待機児童数0を目指して欲しい。コロナで職をなくした人で、希望する方には保育資格の経済的サポートを行ってほしい。	待機児童については、政策1-1施策1に、「待機児童・未入園児童の解消に向け、保育所等の利用者数の増加に適切に対応します。」と記載するとともに、待機児童数を成果指標として定めているところです。放課後児童クラブについても、必要な児童を確実に預かっていけるよう支援員等職員の確保に努めていきます。また、保育資格の経済的サポートに対するご意見については、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
6	総論		不登校支援学校はありますか？市の図書館や福祉事務所、公民館などの使わない部屋などで、作れませんか？救われる命がたくさんあるのでは？	不登校やその傾向のある児童生徒への支援として、公的な施設である教育相談室や適応指導教室を設置するとともに、二つの民間施設とも連携しています。今後も、児童生徒一人ひとりに応じた支援の充実に努めていきます。
7	総論		まちには2つの姿がある。都市の姿と、暮らしの姿。言い換えるとハードとソフト。都市像と、生活像である。10年後の姿の2つのビジョンが市民に見えないと具体的な計画がフォアキャストにならざるを得ない。バックキャストで計画が求められる中、しっかりしたビジョンが必要です。ここでは都市像の提案をしたい。そこをしっかりと議論するプロセスが計画できているかどうかで、未来のまちの姿が違ってくる。未来の岡山市の姿はのっぺらぼうなどこのまちとも違わない均一な都市の姿になるのか、庭園都市になるのか、ハイブリッドな都市を目指すのか、それとも桃太郎があちこちに立っているような街になるのか、そうではない岡山らしいまちとはどのようなテイストなのか、もう一度地域の歴史・風土・文化、人物、そして人工物などをレイヤーして重ねる中で土地の魂が夢見る岡山市の姿を起こしてほしい。物語を紡いでほしい。具体的な目に見える姿を想像することを市民とともに創り出し、夢を起こそう。	第六次総合計画の長期構想は、様々なワークショップや議会など、市民の皆様の意見を丁寧に伺い、都市づくりの基本目標と将来都市像を定めています。都市づくりの基本目標等の実現に向けて、今後も固有の強みや特性を最大限にいかしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現に向けて、さらなる発展をめざした都市づくりを進めます。
分野別計画（意見項目数：6-2）				
8	分野別計画	1	土地がない岡山市では投資効果の大きい製造業などの企業誘致は難しいと思います。計画にあるような事務やIT職をターゲットにすることは理にかなっていると思いますが、オフィスの空室状況にも左右されるのではないのでしょうか？テレワークが当たり前になってくる世の中で、交通結節点や自然災害の少なさなど、岡山の強みをいかすには、周辺地域とも連携したワーケーションの促進も検討してみてはいかがでしょうか。	新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけにテレワークの普及が進み、働き方や働く場所も変化していく中、企業ニーズに柔軟に対応した企業誘致に取り組む必要があると考えています。ご意見のようなワーケーションについても、今後の参考とさせていただきます。
9	分野別計画	1	「施策④」について ・雇用形態の多様性についても考慮していきたい。例えば、今後ギグワークが増えていくことを考えると、人口パイが多い都市圏から、リモートワークの業務を切り出すことで（居住地はそのまに）労働時間を移住させる方策なども。	ご意見の趣旨は、雇用形態の多様性について考慮すべきとのことと推量しますが、本市では、雇用形態の多様性等企業ニーズを把握しながら、企業人材確保の支援に努めているところです。今後も引き続き事業者と意見交換を行いながら、中小企業の人材確保について支援していきます。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
10	分野別計画	1	・そもそも、何によって働く企業を選ぶべきかという判断軸を形成するところから考える視点も重要である。近代教育は都市化プロセスの中にあることを考えると、既存の教育の価値観形成においては、同一基準において都市部の企業が勝つていくと若者が感じることは少なくない（大手志向や安定志向など）。その基準の上で戦うことも重要である一方で、岡山県で働くとは、どのような生き方で、その豊かさに大学生になる前の中高生の段階から多様な価値観を形成しておく施策も、中長期で考えれば、岡山県の人材育成に寄与すると思われる。	岡山市立中学校において、「岡山キャリアスタートウィーク事業」を実施しており、中学生が「職業調べ」や地域の企業への「職場体験学習」などを通して、職業選択の判断軸や多様な価値観等を身に付けることができるよう取り組んでおり、政策14に記載しています。
11	分野別計画	1	施策4 企業人材の確保と育成 岡山の若者世代の就職活動でよく耳にするのは「安定」と「社会にいいことをしている企業かどうか」。バリバリ働きたい若者が都市圏の大手企業に就職を望むことをそれはそれで尊重するが、岡山で就職活動をする若者の希望こそ尊重したいと考える。ここで特に支援が必要だと思うのは「社会にいいことをしている企業かどうか」という声で、地方都市で長く続いている中小企業などはそのような取り組みができていない、あるいはいなくてもアピールが弱かったりする印象。本業務以外でどこから手をつけたいかわからないという企業も多いだろうから、ESG経営やSDGsの視点を取り入れた事業のメリットを企業に知ってもらうこと、またその導入支援と若者や社会全体へのアピールによって岡山の企業へ抱く魅力の底上げができると、面白い視点をもった若者が岡山で働き続けたいと思えるのではないかな。	本市では、産官学民と連携して、企業をはじめとする多様なステークホルダーの優れたSDGsの取組を顕彰する「おかやまSDGsアワード」へ参画し、企業活動の「見える化」を推進するとともに、岡山ESD推進協議会を中心に、企業を対象としたSDGs研修を実施しています。 また、市内中小企業の人材確保を目的として、企業情報冊子を作成しており、その中にはESGやSDGsの取組、本市が「ホワイトプラス企業」として表彰する健康経営やワークライフバランスの優れた取組について記載されている企業もあります。 引き続きSDGs等の普及・啓発・促進を図るとともに、ESGやSDGs、「ホワイトプラス企業」の視点を取り入れた事業のメリットを企業に周知することやその導入支援の方法について、研究していきたいと考えています。
12	分野別計画	2	政策②施策1 歩いて楽しいまちなかの魅力と賑わいづくり 西川緑道公園でのイベントの雰囲気などは年々安定感という馴染みのあるものになっていると感じるが、「歩くだけで楽しい」なのか「歩くことで楽しい」なのかによって、日常的なエリアの雰囲気の創出なのか、イベントによって人々を引き寄せるものなのかという意味が変わってくる。「賑わい」を指標で表すのが難しいことは重々承知ではあるものの、成果指標として「普段とイベント時の通行者数の差」に重点を置くことは避けて欲しいと考える。アンケートを取れるのであれば来場者への質的なアンケートによる感想などによって満足度や今後の期待を指標や課題として評価してもらいたい。	ご指摘の通り、政策2の指標は、賑わいを測る指標として選択し、目標を掲げることとしております。 歩行者通行量については、平日と休日両方の数字をとり、どちらの賑わいもより高めていく指標としているものであり、イベントのあるなしの差に主眼を置いてこの指標を設定しているわけではありません。 また、アンケートについてはご指摘を参考とさせていただきます。今後の政策評価をする上で、必要に応じて取っていきたく考えています。
13	分野別計画	2	他の自治体で商店街の空き家対策の一つとして、各商店の二階をリノベーションしてシェアハウスにしているという取り組みが紹介されていた。商店街は街中にあるため、立地に優れており、必要なものも商店街で購入できるため、需要はあるのではと感じた。顧客吸引力や歩行者通行量を増やすことは当然大切だと思うが、商店街に住んでくれる人を増やすという取り組みも商店街を活性化するために大切だと思う。	近年、商店街は人と人との触れ合いが提供される地域コミュニティを支える場など、地域の買物を支える小売業等の拠点という従来の機能以外の役割も期待されるようになってきています。 本市は、商店街が主体的に取り組む魅力ある店舗の誘致活動や集客イベント等に対し、積極的に支援を行っているところです。今後も引き続き商店街と意見交換を行いながら、商店街が取り組む活性化事業について支援を行ってまいります。
14	分野別計画	2,5,8	後楽園や岡山城など市内中心部の歴史的な資産はもとより、西大寺や足守、庭瀬・撫川地区など周辺部に残る伝統的な建築物や歴史的な資産をも再度検証し、歴史・文化に培われた魅力的なまちを創造し、岡山市全域を楽しんで探訪できるような「歴史文化都市」の形成が必要。	岡山市域は、かつて吉備の国と呼ばれ、歴史・文化的に大変栄えていたと考えられ、市内各所に数多く存在する歴史・文化資産は、岡山市の強みであると認識しており、ご意見も踏まえて、政策8（施策の方向性）に「岡山市の強みである歴史・文化資産を掘り起こして、新たな観光資源として磨き上げ、魅力を高めていきます」と記載を追加しています。
15	分野別計画	2,6	アフターコロナを見据えた都市戦略として、国内外から選ばれる都市になるためには、岡山市の大きな強みの一つである“交通の要衝”としての優位性をさらに高める必要があり、路面電車の延伸や環状化の推進のほかにも、岡山市の中心市街地と岡山空港を結ぶ新交通システムの導入や中心市街地と瀬戸内海を結ぶ海上交通の活性化など、快適に移動しやすい交通体系を構築していくべき。	岡山市地域公共交通網形成計画においては、施策の方向性として、都市全体を見渡した効率的・合理的な公共交通網の形成、利用環境の改善による利用促進、交通が不便な地域における安定的な公共交通の確保を上げており、快適で移動しやすい交通体系の構築を目指していきたく考えています。
16	分野別計画	2,6,27	路面電車の延伸と環状化について、大雲寺前電停から西大寺町電停までの区間に加え、市役所筋から大雲寺電停も路面電車が通るとより便利だと思う。路面電車による公共交通の利便性向上に期待しているので、実現してほしい。	人口減少、高齢社会の進展を見据え、持続可能なまちづくりを進めていくためには、利便性が高く効率的な公共交通ネットワークの構築が必要であると考え、令和2年2月「岡山市路面電車ネットワーク計画」を策定し、そのうち、大雲寺前電停から西大寺町電停区間については、今年度、都市計画決定に向けての設計を行っているところです。 その他の路線については、岡山市路面電車ネットワーク計画に基づき、検討していきたく考えております。
17	分野別計画	2,6,27	路面電車の延伸と環状化のように主な事務事業で再掲と書いてある事業がいくつかあった。これらの事務事業を進めていくことは、複数の施策を同時に進めることになると思う。総合計画の早期実現のためにも、再掲と記載されている事務事業を優先的に進めてほしい。	「主な事務事業欄」には、各政策の施策の方向性に沿って実施する事務事業を掲載していますが、複数の政策に関係する場合は、関係する政策の「主な事務事業欄」に再掲しています。事業の実施については、市民ニーズや社会経済情勢の変化を的確に把握し、全体のバランスを見ながら重点化を図り、着実に計画を推進していきたく考えています。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
18	分野別計画	3	農業の担い手不足と農家の高齢化に危機感を感じた。「儲かる農業」を目指し、6次産業化や機械化等を進めることはとても良いことだと思う。農業の担い手を増やすためには、子どもと親へのアプローチも必要ではないかと思う。子どもに農家は儲かるかっこいい職業だと思ってもらったり、親が子どもに対して農家になることを勧めたりすることができるように、6次産業を実現している農家との交流会や機械化した農業を実際に体験してもらう場があれば面白いのではないかと感じた。	ご意見については、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
19	分野別計画	3	政策3 多彩で活力ある農林水産業の振興 施策④ 森林の活用と水産業の振興：漁獲量の安定化のためには、育成や放流以外に旭川、吉井川水系からの栄養塩基と沿岸域のアマモ場を形成する砂が必要。岡山市沿岸のアマモ場が大きく失われた現状に加え、両水系共にダム建設で特に砂や中流域への石の提供が阻害されており、結果ヘドロが海底にたまったままの現状。同時にダムで魚類の遡上や下降もできなくなっており、ダムに魚道整備や土砂の移動が可能となる工事を行う必要があります。魚類の放流だけでも、水生生物が繁殖できるアマモ場の環境が確保されなければ意味がありません。生産性の高い集団優良農地の確保に向け、農地におけるソーラーシェアリングの拡大により、農地の生産性向上と再生可能エネルギーの拡大を提案します。	漁獲量の安定のためには、種苗放流等の栽培漁業や漁獲制限等の資源管理型漁業に加え、漁場の環境改善整備が重要であることから、海水への栄養塩供給のため、下水処理場の管理運転や児島湾内の海底耕うん作業を実施しています。海底耕うん作業については、海水への栄養塩供給だけでなく、海底環境の改善も見込めることから、今後も積極的に取り組んでいくこととしているため、政策3（施策の方向性）に「海水への栄養塩供給や海底環境改善を目指した海底耕うん作業」の記載を追加しています。 また、営農型太陽発電は、作物の販売収入に加え、売電による継続的な収入や発電電力の自家利用等による農業経営の更なる改善につながる取り組みとして期待されており、市内ですでに取り組んでいる経営体もあります。一方で、営農の適切な継続が確実か、周辺の営農に支障がないなどの課題もあることから、いただいた提案は今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
20	分野別計画	3	政策3 多彩で活力ある農林水産業の振興 施策④ 森林の活用と水産業の振興：森林環境税の導入もあり、域内の木材活用を行うことは重要である。こうした財源を活用して市内でも森林に関するベンチャーを行う事業の支援など、事業化を図ると共に、今後水害が続くことを考えると森林の水源涵養機能を高めるための森づくりを並行して進めることも重要だと考えられるため、そうした森林活用のデザインとマネジメントを行う機関の発足を提案します。	現在実施している公共建築物等への木材利用を引き続き推進していくとともに、提案いただいた具体的な施策については、森林環境譲与税の有効な活用に向けて今後の参考とさせていただきます。
21	分野別計画	4	情報発信はフェイスブックだけですか？他のSNSも活用すべき。	ご意見を踏まえて、政策4（主な事務事業）の記載を「Facebook等を活用した情報発信」に変更します。
22	分野別計画	4	人口減少は、大きな課題だと思いますが、コロナ禍今、田舎移住の傾向もあるようです。岡山は大変住みやすい環境だと思います。コロナが原因で、都会から岡山市へ移住を希望する方に、PCR検査をすることを条件とし、住む場所を提供するなり、何らかの形で援助する。そういった今やるべき事、今からできる事にスピード感を持って取り組んでほしいです。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により人々の意識や価値観、働き方の変化がみられています。こうした社会環境の変化に対応していくとともに、移住先としての岡山市の魅力や特色の発信に加えて、移住希望者の住まい・就職などの多岐にわたるニーズに沿った情報を的確に提供し、U I Jターンを促進するなど、移住定住施策の再構築に取り組んでいきたいと考えており、政策4に記載しています。 なお、岡山市へ移住を希望する方に、PCR検査をすることを条件とすることについては、問題があると考えます。
23	分野別計画	4	コンベンション誘致の推進にあたっては、コロナ禍を踏まえ、リアルとオンライン同時に開催できるような「ハイブリッドコンベンションシティ」の実現を推進していくべき。	産官学連携による誘致・開催体制をさらに強化するとともに、ハイブリッド型コンベンションをはじめ多様な開催形態への対応を強みとして、様々なコンベンション主催者へ情報提供することにより、地元でのコンベンション誘致を促したいと考えており、ご意見も踏まえて、政策4（施策の方向性）に「多様な開催形態への対応を強みとして」と記載を追加しています。
24	分野別計画	4,18	グローバル化の観点から、「外国人居住者にもやさしいまち」の実現を図るには、外国人の就労や留学を支援するため、企業、教育機関や医療機関における外国人対応の推進の支援も必要。	多文化共生推進ネットワーク会議において、教育機関等の関係団体と連携しながら多文化共生の推進に取り組んでいます。ご意見を踏まえ、実施している事業をわかりやすくするため、政策18（主な事務事業）に「多文化共生推進ネットワーク会議を通じた教育機関や企業などの関係団体との連携」と記載を追加します。
25	分野別計画	4	政策4 国内外の人を惹きつける観光・交流の推進（観光・交流） 施策3 戦略的なプロモーションによる都市ブランドの確立 桃太郎のイメージ定着を図る中で、鬼を退治するから転じて、地域課題（＝鬼）を退治するという社会事業についてあわせてPRすることで社会事業、ソーシャルビジネスなどのソーシャルな取り組みが先進でその担い手（桃太郎）がたくさんいる岡山をPRすることを提案します。困窮者支援や地域づくりでも先進的な取り組みが多く、協働の仕組みも多くの県外視察者があるなどPRに値するものだと考えます。	いただいたご意見をも参考にしながら、都市イメージの発信に努めていきます。
26	分野別計画	4	政策4 国内外の人を惹きつける観光・交流の推進（観光・交流） 施策4 移住・定着の促進 学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト[再掲] 施策の方向性の項目にある「若者の岡山への定着を～」の部分(はとも共感できるものであったが、プロジェクトについては限定的で、これに関わることのできる学生もごく一部だと感じている。NPOなどの団体で自主的に活動している学生たちは、社会人になってこのような活動を続けたいという思いを持って岡山に定住するケースをよく見ているため、単年のプロジェクトの支援と併せて、市民活動ともクロスすることの効果にも着目していただきたい。	学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトでは、大学生等がNPO等の市民活動とも協働し、地域の課題解決にむけて取り組んでいます。 今後、事業内容を見直し・研究する中で、ご指摘いただいた内容を参考にさせていただきます。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
27	分野別計画	5	市街化調整区域について、南区浦安地区のように「市街化を抑制する」という市街化調整区域の理念に本当になじむのかと思われる地域も存在しています。時代の流れて土地利用のあり方も変化中、岡山市においては長期間線引きの見直しは実施されておりません。現在の線引きを維持する方針のように難しいとは思いますが、時代の変化に応じて柔軟に線引きの修正を検討するという記載も盛り込んでみてはいかがでしょうか？	今後の人口減少や高齢化の進行を見据えると、低密度な市街地の拡大を抑制し、人口や都市規模に応じた適正な土地利用を推進していく必要があると考えています。このため、現在の線引き制度を引き続き適切に運用し、あわせて、中山間地域等の周辺地域においては、集落活性化に資する取組について検討していきたいと考えています。
28	分野別計画	5	政策5 周辺地域の拠点機能の充実と活性化（都市・周辺地域） 施策①活力ある拠点の形成と適正な土地利用の推進：本施策の中に示されている西部総合公園では市民によるパークマネジメントに関する取り組みが自主的・継続的に行われている。この取り組みを活かし、市民参加が進んだパークマネジメントが実現された場所とすると共に、指定管理者制度などによる民間事業者をできるだけ複数、組み合わせ、これまでの建築業者やデベロッパーのみがおこなうのではなく、既存概念にとられない様々な人の参加で行う新しい公園づくりをより積極的に進めることを提案します。	岡山西部総合公園（仮称）では、パークマネジメントの導入を図るため、市民、学識経験者及び利用団体などで構成される組織を立ち上げています。引き続き市民等との協働を進めるとともに、民間活力の導入を積極的に図ることで、多様な利活用ができる魅力的で賑わいのある公園となるよう、整備を行っています。
29	分野別計画	5	政策5 周辺地域の拠点機能の充実と活性化（都市・周辺地域） 施策②周辺地域の活性化と交流の促進：ここに掲げられる地域振興基金活用事業は素晴らしい取り組みであるが、その案件形成や支援等の助成財団におけるプログラムオフィサーにあたる業務が十分に機能しているとは言えない。民間で地域課題の解決に関する事業案件組成のノウハウを持つ事業者を組み入れ、案件組成からの支援をし、各周辺地域に取り組みが生まれるようにすると共に、地域組織の在り方についても提言に結び付くような状況づくりを行うことを提案します。	地域振興基金活用事業である、「地域の未来づくり推進事業」では、地域課題解決の取組創出に向けた講演会の開催や、事業検討中の団体に対し、NPOや実践者の派遣による課題整理や体制作りに関する支援、中小企業診断士など専門家による助言等を実施しているところであり、ご意見も参考に引き続き、きめ細かな支援を行ってきたいと考えています。
30	分野別計画	6	めぐりの参入によるトラブルが全国的なニュースになりました。「持続可能な公共交通の実現」と記載されていますが、持続のためには、利益のみを追求するのではなく、公共交通の維持を「使命」とする事業者の意識が重要と考えます。そして、見合う利益が得られないのであれば、行政の関与は必須だと思います。「交通事業者の意識向上」や「行政の積極的な関与」といった記載を盛り込んでみてはいかがでしょうか？	令和2年6月に策定した「岡山市地域公共交通網形成計画」の中で、基本方向、施策の方向性、役割分担を整理しており、事業者、市民・利用者、岡山市の3者が協働・連携する中で、それぞれの役割を果たすこととしています。
31	分野別計画	6	政策6 人と環境にやさしい交通ネットワークの構築 施策②地域における生活交通の確保：特に周辺地域や過去のニュータウンなどは交通難民と呼ばれる方が増加している。そうした地域では乗り合いによる無償運送やカーシェアなどの先進的な取り組みもなしで行われているため、これを地域振興基金活用事業を活用して面的に広めていく取り組みや、また、その現場にカーメーカーと協働して電気自動車の導入を図るなど、住民主体の取組を後押しする施策をより明確に展開していくことを提案します。	交通不便地域においては、買い物や通院などの日常生活を支える移動手段を確保することが必要であると考えており、現在、6地区において「デマンド型乗合タクシー」の導入に取り組んでおります。生活交通の導入にあたっては、地元検討組織が主体となり、市も一緒になって取り組んでいます。地域の交通を検討するにあたっては、住民のニーズに応じた生活交通の導入を進めていきたいと考えています。
32	分野別計画	6	政策6 人と環境にやさしい交通ネットワークの構築 施策③ 自転車先進都市の推進：自転車利用ニーズ向上および、安全で快適な自転車走行空間の整備について。特に中・高・大学生の通学路は、対面して通行できるように、その幅の拡張や舗装レベルを車道と同じレベルに（凸凹や段差、勾配をなくす）する必要がある。特に橋梁の自転車・歩行者道は安全に交差できる幅にするとともに、道路の左右にきちんとした自転車道を整備する必要がある。おかやまケンコー大作戦とリンクさせて企業へのインセンティブを設け、企業単位での自転車通勤を支援する制度を設けることを提案します。	自転車は「車両」とであるという大原則のもと、自転車が安全に車道を通行できるよう、岡山市が策定した「自転車先進都市おかやま実行戦略」に基づき自転車専用通行帯（自転車レーン）の整備を行っているところです。整備により自転車が安全に通行できる幅員の確保や舗装の凸凹、段差の解消を行っています。また、モビリティマネジメントによる自転車利用の推進を図るため、スマート通勤等との連携を行い、今後も、自転車の利用環境の充実に努めています。
33	分野別計画	7	岡山市が活力と魅力にあふれる都市になるには、シンボルとなる都心が「緑豊かで人にやさしい、歩いて楽しいまち」であることが必要と考える。中心市街地の緑化比率を高めるとともに、主な道を愛称と呼ぶなど、街への愛着を高める取り組みが必要。	中心市街地の桃太郎大通り、市役所筋、県庁通り等の7路線については、街路樹の質の向上、緑のボリュームアップを図る取組により、緑化比率を高めることとしています。また、主な道路についてはすでに愛称で呼んでいます。
34	分野別計画	7	政策7 魅力ある景観と快適な住環境づくり（景観・住環境） 施策②水と緑あふれる憩いの空間づくり：ここであげられる西川緑道公園や石山公園では市民団体や事業者組合等によるパークマネジメントにつながる取り組みが行われている。こうした取り組みを一歩進めるため、都市再生推進法人への指定を行い、パークマネジメントを推進していくことで民間のノウハウを活用してあらたな賑わいを創出していくことを提案します。	ご提案のとおり、都市再生推進法人の指定は、賑わい創出に寄与するものであると考えており、令和2年度は、1団体の指定を行いました。今後も、都市再生推進法人の指定も含め、民間のノウハウを活用しながら、賑わい創出に取り組んでいきたいと考えています。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
35	分野別計画	10	トップチーム支援事業の観点からも、利用者が多く、手狭になっている市内スポーツ施設の拡充や新たな整備を進めるべき。	トップスポーツチーム支援としては、「市民デー」の開催、「職員の名刺へのチームロゴの掲載」、選手が小中学校で交流する「給食交流事業」等に取り組んでおり、今後も各チーム、選手等のご意見を伺いながら積極的に取り組んでいきます。 スポーツ施設につきましては、計画的な整備や適切な維持管理を進めることとしています。（P64施策③）
36	分野別計画	11	政策11安心して子どもを育てることができる環境づくり（子育て） 施策②子育てにおけるワーク・ライフ・バランスの推進 現状と課題や施策では男性の育休取得について触れられていたが、主な事務事業では項目がなかった。岡山市でも市役所職員が積極的に育休を取得している様子を聞き好感を持てたものの、私が聞いた人の内しっかり1ヶ月取得したのは1人のみであった。母親からすると現状での男性の育休取得はまだ足りないのであって、それは男性の職場環境がとて大さきと感じる。子育て支援として、男性の育休所得に対する補助や成功事例（あるいは男性が育休を取得しないことによる弊害も）など、子育て世代の男性が勤める企業に訴えかけられる取り組みを進めてほしい。	政策11の主な事務事業の「施策②子育てにおけるワーク・ライフ・バランスの推進」の中の「女性が輝くまちづくり推進事業（ワーク・ライフ・バランスの推進）」の中で、男性の育児への参加の促進を企業に働きかけていきます。
37	分野別計画	12	政策12 施策①と③について、末尾が「整えます。」「進めます。」「推進します。」とあるが、②と比較したときに目標が見えづらい。その先にどのようなビジョンがあるのか、明確に明記していただきたい。	子どもが安全で健やかに育つためには、身近な地域の中に、子育ての不安を解消したり、子どもが安心して過ごしたりする場や地域での見守りなどが必要であり、そのためには、環境整備と気運の醸成が必要であると考えています。また、施策③では、補導・相談活動を充実させるとともに、関係機関・団体（青少年育成協議会等）との連携を進めることについて記載しています。
38	分野別計画	12	政策12 現状と課題について 子育て世代の孤立は、「○」の2段落目にかかっている課題によるものも大きく影響していると考えられる。 家庭、地域、企業、NPO等の連携について触れているが、施策の中には具体的な取り組みがあげられていない。	主な事務事業の施策①で記載のある心豊かな岡山っ子応援団は、家庭、地域、事業者、学校園、行政が一体となって、「子どもが健やかに育ち、子どもを安心して生み育てることができるまち、岡山」を目指しています。活動を通じて子育てを支援する賛助団体を増やしつづ、政策12 施策③の乳児家庭全戸訪問事業につなげることで、ボランティア訪問による子育ての孤立化を防止する取組を行っているところです。 また、同じく施策①で記載のあるプレーパーク普及事業は、地域住民との協働によって、地域ぐるみで子育ての気運を高め、子どもが安心して健やかに成長できる環境づくりを進めているところです。
39	分野別計画	12	政策12 「施策②」について 子どもが安心して家庭で生活できるようにするためには、「体罰によらない子育ての推進」だけで解決するものではないと考える。そもそも虐待は体罰（身体的虐待）だけではなく、ネグレクトや心理的虐待等が複合的に起きているものではないだろうか。	2019年6月に成立した児童福祉法等の改正法において、体罰が許されないものであることが法定化されました。体罰はよくないとわかっていても様々な状況や理由によってそれが難しいと感じる保護者もいます。保護者支援プログラムにより子どもとの適切な関わり方を広め、体罰等のない社会の実現を目指しているところです。 今後も、きめ細やかなサポートを必要とする子どもや家庭を早期に発見し、関係機関の連携強化により適切に支援していきますが、ご指摘のとおり虐待の態様は複合的なことも多くあるため、政策12（施策の方向性）の「体罰によらない子育てを推進します。」を「体罰等によらない子育てを推進します。」に変更します。
40	分野別計画	12	政策12 「施策③」について 青少年の非行防止と健全育成のためには、家庭、学校、地域、警察等以外にも、「医療」「行政」「NPO」等のより多くの機関との連携が重要であると考えます。	政策12 施策③「青少年の非行防止と健全育成」に向け、家庭、学校、地域、警察等の関係機関と連携し、「警察等」と記載しており、ご意見の趣旨を盛り込んでいます。
41	分野別計画	12	地域で子どもを見守る役割として「主任児童委員」が厚労省より指名されているが、明記されていない。	民生委員・児童委員（主任児童委員）については、政策22の施策3に記載しています。
42	分野別計画	13	政策13「施策②」について ・中学校や高校で実施されている探究学習との連動も行いたい。例えば、教育機関と経済団体のアライアンス（同盟）や学校と社会をつなげるコーディネーターの確立やそれをハブとしたネットワーク形成の実行など。	コーディネーターの確立やネットワークの形成については、政策15の施策3に記載している「地域と学校協働活動推進事業」にて対応しています。また、モデル校に、学校と地域及び企業とをつなぐコーディネーターを配置し、学校と地域及び企業とをつないだ授業づくり実践研究を行っています。この他にも、様々な部局が事業を実施する中で、大学生や高校生等の若者との協働による地域課題の解決等に取り組んでいるところです。今後も若者が積極的に地域活動に関わる施策を推進していきます。
43	分野別計画	13	政策13「施策②」について 若者の社会参加において、若者の声を政策等に反映させていく動きも重要であり、ユースカウンシル（若者議会）のように意思決定プロセスに若者が決定権をもって関わる仕組みを整えたい。	若者が地域に定住するためには、「若者が活躍できる社会」が重要であると認識しています。 岡山市の政策に対して、若者の声を政策等に反映させる動きは重要であると考え、第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略では成果指標の検証で、若者の意見を取り入れる仕組みを構築しており、今後も必要に応じて若者の意見を取り入れていきます。
44	分野別計画	13	政策13「施策②」について ・若者の地域（社会）信頼を獲得していくプロセスも重要であり、義務教育課程で、若者と大人がつながり、お互いに信頼関係を醸成していく機会がまず大前提にあった方がよい。それによって、高校・大学生における若者の力をいかした地域づくりのパフォーマンスが最大化される。	「岡山市地域協働学校」を推進しており、学校では、授業に地域の方を講師として呼びひたり、地域行事への参加・協力をしたりするなど、たくさんの地域の方に関わっていただき、教育活動を進めています。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
45	分野別計画	政策13	「女性や若者が活躍できる」ためには、その前提として「活躍したい」と思える社会であるかにも着目し続けてもらいたい。今の施策は活躍したい人を伸ばすものが多いと感じたが、実際に活躍できていない人たちは「そう思っていない」ことから始まっていると感じる。子育て世代へのアプローチとしては子育て支援事業と連携したり、若者世代へは学校施設などと連携して「活躍したいと感じているか」「そう思わない/そう思ってもできないのは何故か」を掘り下げないと、上滑りの施策になってしまうと感じている。実際に学生については授業・課題・アルバイトで忙しく、学校側もそれを強いているためにまちへ関わることを進めづらいとの声も耳にしている。	女性が「活躍したい」と思える社会になるためには、女性も男性も働きやすい環境づくりを進めていくことが必要であることから、主な事務事業の「施策①男女共同参画の推進」の中の「女性が輝くまちづくり推進事業」で、企業に対して仕事と家庭の両立支援制度の充実や多様で柔軟な働き方を働きかけ、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進に向けた取り組みを進めています。 なお、現在も女性社員のキャリア形成の支援や、大学生のためのキャリア形成応援事業を実施しているところであり、ご意見を踏まえて、実施している事務事業を分かりやすくするため政策13に「学生のためのキャリア形成応援事業」を追記します。今後も、女性や若者が活躍したいと思える社会を実現するため、様々な政策の中で検討していきます。
46	分野別計画	政策14	施策④安心した学校生活を送るよう、特別支援教育の視点をいかに専門的な相談のできる体制づくりの中には、地域の福祉事業所や放課後等デイサービス、NPOなどの専門性をかなえ備えた事業所や団体があるので、それらとの連携も必要ではないか。	子どもたちが安心して学校生活を送るためには、医療、福祉等の関係機関との連携は重要と考えており、今後も専門的な相談ができる体制づくりのため、連携の充実に努めていきます。
47	分野別計画	政策15「施策①」について	・課題のセンターピンは管理職のマネジメント能力にあると考える。『公立学校教員の管理職昇進に関する研究―「学校教員統計調査」の二次分析による現状把握―』（2017、大杉）によると、管理職に昇進した教員の属性傾向として「年齢上昇」「専修免許保有」があり、昇進する確率が相対的に低い要素として「社会人経験あり」という結果になっている。社会全体として、組織の在り方がとらえ直されつつある現代において、学校という組織もまた、その対象の1つであることは自明であり、現代の組織論にキャッチアップしていくことは求められる。若手教員の個としてのレベルアップも重要であるが、チーム学校が求められる現代において、管理職のマネジメント能力の資質向上は急務である。	経験年数や職種等に応じ、それぞれのキャリアステージに沿って資質能力を育成する必要があると考えており、管理職に対しても、特に学校経営に必要なマネジメント力を身に付けるための研修を実施しています。今後も研修を通じて資質能力の向上を図ります。
48	分野別計画	政策15「施策①」について	・学校業務アシスト職員の配置は良い影響を及ぼすと考える。一方で、前提となる業務そのものの見直しをはかり、業務の仕分けを行う施策も必要である。	学校業務アシストや部活動指導員の活用、自動応答電話の導入など、ハードソフト両面から対応しているところであり、政策14、15に記載のとおり、今後も学校教育や教育環境の充実を図ることで教職員の業務改善を努めます。
49	分野別計画	政策15「施策①」について	・同時に、GIGAスクール構想の流れと並行して社内イントラネットの構築は急務であり、効率的なタスク管理やコミュニケーションが行える環境整備を行う必要がある。学校組織は、明らかにガラパゴス化してしまっていると感じる。	岡山市教育委員会では、GIGAスクール構想以前から教育委員会独自のネットワークを整備しており、そのネットワーク上で、校務の効率化と教職員の事務負担の軽減を目的とした「校務支援システム」を導入し、運用しています。
50	分野別計画	政策15 施策②について	多様な学びの機会を保障し質の高い教育を目指すためのGIGAスクール構想やICT環境の整備は、登校可能な児童・生徒はもとより、病気や障害などで、学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して効果が得られると考えている。そのような子どもたちにとって広く学びの環境を整えられるよう整備を望みたい。	GIGAスクール構想で整備した端末を、非常時以外に家庭などに持ち出してオンライン学習等で活用することは、今後検討したいと考えています。
51	分野別計画	政策17	「公民館職員と地域担当職員のコーディネート能力の強化を図るとともに、若者が地域への関心を高め、地域活動の担い手となるための取組を進めます。」と記載されており、コーディネート能力の強化は、個人の資質向上だけでなく役割の明確化や裁量権の範囲にも影響することを踏まえた環境の整備もする必要があります。	公民館を拠点として、公民館の社会教育施設としての専門性と市民協働局の地域活動支援を一体で行うことで、コーディネート力の向上が組織として図られると考えており、地域担当職員が得た地域の情報を公民館職員で共有し、地域課題の解決に向けて、地域の実情に応じたきめ細かい支援を行っていきたくと考えています。
52	分野別計画	政策17	成果指標として「地域活動への参加割合（％）」とあるが、新型コロナウイルスの影響を受けた今後の社会形成を踏まえ、直接的関わりだけでなく地域外やオンライン上など多様な活動への関わり方、関係性の構築を踏まえた指標も必要ではないかと考える。	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民活動団体の通常の事業が中止・延期を余儀なくされるところもあったが、ICTを活用した事業やフードバンクなど新たな支援活動が行われています。このような取組を積極的に情報発信することで、地域活動の内容の多様化を啓発していきます。 こうしたことから、オンライン上での活動も指標に掲げる地域活動に含まれるものと考えています。
53	分野別計画	政策17 施策③	多様な主体による協働の推進に掲げられている一連の多様な主体による協働に関する一連の仕組みは、全国に誇れるものであり、事実、多くの県外視察も受けている。この仕組みを広域連携の各地に広げると共に、全国的な場でも提示していくなど、PRに活用していくことを提案します。	これまでの取組は、岡山市協働推進計画に掲げる成果指標も概ね順調な推移であり、また、岡山市が設置する岡山市協働推進委員会や市民協働フォーラムによる評価も概ね順調だったと言えます。 今後は、こうした取り組みをHPやSNSを活用して積極的に情報発信を行っていき、また連携中枢都市圏にも情報共有を図っていきます。
54	分野別計画	政策19	施策①人権意識の高揚は多様性を育む社会には必要不可欠である。病気や障害のある人たちへの理解も未だ十分には進んでおらず、この施策に支援団体との協働による取り組みに期待したい。	人権啓発活動補助金、人権啓発推進事業の啓発や活動で協働するように計画で記載済みであり、内容を着実に実行できるようしっかりと進行管理を行います。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
55	分野別計画	20	高齢の男性は閉じこもりになりがちなので、外出を促すためにもニーズのあるスポーツやイベントを市内の複数個所で毎月開催するのはどうでしょうか。女性は体操教室やサロンでも参加しますが、男性の場合はスポーツイベントがなければ単純な運動や話すだけの場では外出しないと思います。昨今はコロナ予防で難しいと思いますが。	介護予防教室やあつ晴れ！もも太郎体操など、地域の住民主体の通いの場における参加者は女性の比率が高く、男性も参加しやすいしかけづくりが今後の課題と考えています。ご提案の内容については、今後の事業検討の参考とさせていただきます。
56	分野別計画	20	市民の健康づくり、とりわけ女性が輝くまちづくりの推進には、前提となる女性の健康づくりの観点からの施策が必要。	女性の健康づくりを含め、市民がいきいきと暮らしていけるよう、健康づくりの環境整備等に努めています。
57	分野別計画	22	政策22 障害者手帳を所持できない、難病者や特定疾病の患者は公的な福祉サービス等が受けられない状態にある。そのため進学や就職が困難な場合や不利になるなど、課題解決が困難な事象もあるため、福祉の枠組みから外れている疾病患者に対してのサービス向上や課題解決を地域全体で行えるシステムや施策作りを提案していきたい。	難病法の趣旨に鑑み、患者の厳しい療養実態など、患者・家族の実情を踏まえた長期療養施設や在宅ケアの充実等を図るとともに、保健・医療・福祉・雇用にわたる総合的な難病対策の実施を国に要望しているところです。障害福祉サービスを利用できる対象疾病の拡充について国の動向を注視し、引き続きサービスを必要とされる方への広報周知を工夫してまいります。 また、サービス向上や課題解決を地域全体で行えるシステムや施策作りについて、今後の政策決定の参考意見とさせていただきます。
58	分野別計画	24	政策24 気候変動により各地で災害が起こっており、2年前の西日本豪雨などの非常事態がいつどこで起こってもおかしくない状況になっています。災害など非常事態時に民間で迅速に活動できるように、アメリカのFEMA（緊急事態管理庁）が国家資格として認定した民間人が指揮をとり、支援活動などを行える仕組みを取るように、岡山市独自の緊急事態時、支援サポートを行政に代わって行う人材確保を地域課題の解決のビジネスの一つとして提案します。 参考サイト：各国の危機管理組織の概要 http://www.bousai.go.jp/kaigirep/kaigou/1/pdf/sankou_siryou3.pdf	ご意見については、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
59	分野別計画	25	政策25 現状と課題および施策について 子どもから高齢者まであらゆる世代がインターネットでの様々な被害にあっている。予防のためにも、特に子どもたちにはメディアリテラシー教育が必要と考える。	消費者トラブルを未然に防ぐため、メディアリテラシーの向上を含めた消費者教育を推進します。 また、市立小中学校では、令和2年度末までに1人1台端末が導入されることから、様々な授業や学校生活の中でインターネットの正しい利用の仕方やメディアリテラシーについて指導の充実を図っていきます。
60	分野別計画	26	政策26 岡山から広げる地域に根ざした環境づくり（環境活動） 施策③生物多様性の保全に取り組む企業活動の支援、地域での主体的な環境保全活動の担い手づくり：市内で多く見られる放置竹林を企業や地域で整備することが必要。放置竹林は、周囲の山林を駆逐し、生物多様性の低下や獣害なども引き起こす原因となっている。高梁市の榎松本は、放置竹林を整備し、竹のパウダーを作り、土壌改良剤として福祉作業所と連携した商品づくりを行っている。企業と公民館活動の連携を図る政策ならびに学区の小中学校の環境学習と結び付けて、地域での竹林再生活動を促進することを提案します。	学校では、将来子どもたち一人一人が持続可能な社会の担い手として活躍できるよう、地域の環境問題等の様々な課題の解決に向けて取り組み、学びを深めていく学習を進めています。いただいたご意見は、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。
61	分野別計画	26	政策26 岡山から広げる地域に根ざした環境づくり（環境活動）：かつて里山の恵みを得ていた竹林は放置され、イノシシ等の住みかとなったり、竹の繁茂により周囲の里山の樹木等を駆逐し、生物多様性も悪化させています。一方この事実を知る人は少なく、関心も高まりません。公民館を環境整備や地域の環境学習の拠点並びに住民の交流の場として機能させ、竹の有効活用とその恩恵を住民が享受できるようにするとともに、竹林整備の指導者養成講座を、操山里山センターを核に実施することを提案します	放置された竹林はイノシシ等の住処となることや生物多様性を悪化させること、水害の発生をさせやすくなること等の悪影響を起こす原因とされています。公民館では、重点取組の一つに環境保全を位置付けており、多様な主体と連携し、社会教育の立場で地域環境保全活動を支援しています。また、操山公園里山センターにおいては、「竹林の整備」、「竹活用講座」等のプログラムを継続的に開催しており、環境に対する関心を高めるための取組を行っています。ご提案の竹林整備の指導者養成講座については、基本のプログラムの内容を鑑みながら判断したいと考えており、今後の参考とさせていただきます。
62	分野別計画	27	政策27 再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の促進：企業の工場廃熱も融通し都市部での地域熱供給を推進することを提案します。また、住民が、エネルギーの需要だけでなく、発電者・投資家としても参加する地域分散型のエネルギーシステム「SIBを活用した新電力会社による再生エネルギー普及事業」を提案します。	補助事業などにより、再生可能エネルギーの拡大や省エネルギーの推進に取り組んでいるところですが、新たな取組についても今後検討していきます。
63	分野別計画	27	政策27 低炭素型の環境にやさしいまちづくり：①事業者には率先して、岡山市公用車のEVやFCVなどへの転換、導入を提案します。②住宅のゼロエミッション化は家庭におけるCO2の削減に大きく貢献することから、新築、既築とも高断熱・高气密をアドバイスできる人材の育成を行い、ゼロエミッションの住宅の普及を図ることを提案します。③再生可能エネルギーの拡大と農地の生産性の高い優良農地の確保に向け、農地におけるソーラーシェアリングの拡大を提案します。	現在36台の次世代自動車を公用車として導入しており、引き続き導入を進めていきます。住宅のZEH化については補助事業を実施しており、今後も関係者と協力しながら取組を進めていきます。また、営農型太陽発電は、作物の販売収入に加え、売電による継続的な収入や発電電力の自家利用等による農業経営の更なる改善につながる取り組みとして期待されており、市内でもすでに取り組んでいる経営体もあります。一方で営農の適切な継続が確実か、周辺の営農に支障がないか等の課題もあることから、いただいた提案は今後の参考とさせていただきます。

意見の概要と意見に対する市の考え方

No	該当箇所	政策	意見の概要	意見に対する市の考え方
64	分野別計画	27	政策27 令和3 2年までに80%の削減を目指すとしています。 ↓ 2050年の実質ゼロカーボンを目指すとしています。に修正が必要です。	ご意見を踏まえて、政策27（現状と課題）に、「令和2年10月の首相所信表明演説においては、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロをめざすことが表明されています。」と記載を追加しています。
65	分野別計画	27	政策27 現状と課題 16行目 電気自動車などの次世代自動車の導入や、 ↓ 再生可能エネルギーを燃料とする電気自動車の導入拡大や に追加・変更を提案します。	電気自動車の導入については、公用車としての活用のほか、補助事業により促進しているところですが、岡山市の地域特性を生かした太陽光発電についても市有施設への設置や、補助事業により導入を促進しており、今後も再生可能エネルギーによる電力の拡大に引き続き取り組んでいきます。
66	分野別計画	27	政策27 施策① 再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の促進 1行目 低炭素型の都市の実現に向けて、エネルギーの地産地消、省エネルギー化、安定的なエネルギー確保や未利用エネルギーの利活用などにより温室効果ガスの削減を図ります。 ↓ 2050年ゼロカーボンを目指します。に変更を求めます。	ご意見を踏まえて、政策27（施策の方向性）に記載している「低炭素型」を「脱炭素型」に変更します。
67	分野別計画	28	政策28：ごみの減量化とリサイクルの推進：現在、団塊の世代からの大量の家財品が排出され、一時多量ごみとして収集するも現行の収集体制では対応が出来ず、違法業者など不法投棄の温床となっている部分もあり、早期の対応が必要と思われます。不要な家財品は、廃棄物として取り扱う前に、3R政策（リデュース・リユース・リサイクル）に鑑み開発途上国に向けたリユースを行うことで廃棄削減が可能となります。現在、福岡県福岡市と神奈川県川崎市が一時多量ごみの収集運搬の許可認定を行っております。岡山県も高齢者のごみ問題・空き家問題を解決すると同時に、循環型社会を形成する上で、廃棄削減を行い使用可能な廃棄物をリユース主導の資源循環を整えるためにも、一時多量ごみの収集運搬の許可認定を提案いたします。	一時多量ごみについては、対応可能な許可業者の一覧を市ホームページ上で公開していますが、収集運搬の許可については、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。 （「一時多量ごみの収集・処分及び遺品整理が対応可能な許可業者について」 https://www.city.okayama.jp/kurashi/0000021754.html ）
68	分野別計画	28	事業ごみの処理についてはその内訳も丁寧に検討し続けていただきたい。現状の主な事務事業としては事業者が大きな物品をゴミとして処理する場合の課題に熱心に対応されていると感じたが、事業ごみのうち、重量は少なくとも処分場以外の場所でもまちや社会に悪影響を及ぼしていたり、草の根的活動から削減できるものも見落とさずに取り組んでいただきたい。また、ごみの問題はタブー的な印象もあるので、スポーツやエンタメなど訴求力のある分野でのゴミ削減などによるアピールも積極的に展開してほしい。	事業系ごみについては、適切な分別と量の削減を働きかけており、啓発のほか毎年減量計画の提出を求めるなどしています。 また、市民デーのスポーツイベント等の機会をとらえ、マイバッグの利用や生ごみの堆肥化を呼びかけており、引き続き、削減に取り組んでいきます。
69	分野別計画	30	行政のスマート化マイナンバーカードを使った戸籍や住民票などの窓口業務についての記述かと思えます。行政全体のスマート化を目指すのであれば、窓口だけでなく、事業者が役所に提出する公共事業の受注書類、開発・許可申請、補助金などの書類もペーパーレス化、オンライン化を進めるべきではないでしょうか。	ご意見を踏まえて、政策30（施策の方向性）に、「事業者向けの行政手続きについても、利用者目線によるオンライン化等を推進することで、行政の効率化だけでなく事業者のビジネス環境も向上させます。」と記載を追加しています。
区別計画（意見項目数：2）				
70	区別計画	全区	コロナで、地域の祭りや運動会ができません。また、できるよう、計画を作ってください。	岡山市では、地域活動（イベント）を行う際の感染症対策と留意事項等をお示しするためにガイドラインを作成しています。地域活動（イベント）の開催にあたりましては、本ガイドラインを目安として活用いただき、感染防止対策等を講じていただきますようお願いいたします。なお、本ガイドラインは、今後の感染状況等を踏まえ、必要に応じて内容の改訂を行います。
71	区別計画	中区	現状と課題として、「岡山運輸支局の跡地（中区藤原）の利活用が重要な関心事項」、「平成10年に先行取得した図書館整備用地（中区高屋）が未活用」とありますが、施策展開の方向性では、その課題に対する方向性が触れていません。中区の住民にとっての関心事であるため、明記してもらいたいと思います。	具体的な方向性を示すことができる状況になく、現状と課題への記載としています。